

小学校・高学年・導入

●所要時間 約5分 ●準備するもの 特になし

社会のルールって何だろう？

効果・ねらい 社会のルールについて考える

社会のルールを守ることを意味を知り、自分の身に照らし合わせて考えさせる。
こうしたルールを守ることは、
安全で住みやすいまちをつくる第一歩であることを感じてもらう。

就学前
(幼児)

小学校
低学年

小学校
中学年

小学校
高学年

【指導方法】

●指導者は子どもたちに、“社会のルール”にはどんなものがあるか、あげてもらう。

●意見の中のいくつかを取り上げて、そういうルールを守らないとどうなるかを、子どもたち自身に照らし合わせて考えさせる。そのあとに、犯罪との結びつきを説明する。

●「自分だけなら」と軽い気持ちでみんながやったら、犯罪の起きやすい町になってしまうことを認識させ、“社会のルールを守ること”は自分自身の気持ちや行動から始まることを確認する。

●一人一人がまちの安全に関わっていること、住みやすいまち・安全安心な社会になるにはルールをみんなで守ることの大切さに気づかせる。

【指導者の声かけ・ヒント】

●「わたしたちが生活している社会の中では、みんなが気持ちよく暮らせるように、いろいろなルールがあります。そのルールには、どんなものがあるでしょう？ 例えば交通安全とか……」

例：ゴミやたばこのポイ捨て、落書き、街頭での立小便、駐車違反など

●「例えばゴミのポイ捨て。もし“ぼく／わたしが、ちょっとお菓子の袋を捨てるくらいだいじょうぶ”と思ってゴミを捨てたら？ 一人が軽い気持ちで始めたことでも、みんなが同じような気持ちでやったら、どうなるでしょう？ 落書きや自転車の放置なども同じだね」

●「反対に、される立場になったら？ もし、みんなの家の壁やへいに落書きをされたら、どんな気持ちになるでしょう？」

●「残念ながら、ほんの軽い気持ちで始めたことが気づかぬうちにエスカレートしていったり、“みんなもやっているから”と、される側の気持ちを忘れて痛みを感じなくなることがあるんですね。だから、まず一人一人がルールを守っていくことがだいじで、そうすることでまちがきれいになったり安全になったりして、安心して住めるまちになっていくんですね……」



みんなのいのちはだれのもの？

効果・ねらい 多くの人に守られていることに気づく

自分のいのちや安全は、家族や地域、警察など、いろいろな人たちの力で守られていることに気づかせ、その人たちへ感謝の気持ちを持つことがだいじであることを感じてもらう。

【指導方法】

●子どもたちに、自分のいのちはだれのものだと思うか、意見をあげてもらおう。

例：「自分のもの」、「親のもの」、「だれのものでもない」など、色々な意見が出るのが考えられる。

●つぎに、身の回りで安全を守ってくれている人には、どんな人がいるかあげてもらおう。

例：家族、登下校時のパトロールの保護者、スクールガード、おまわりさんなど。

●地域のたくさんの人が子どもの安全を守ってくれていることを改めて気づかせ、子どもの存在がどれだけ大切なものかを実感してもらおう。

・今ある安全は地域の大人がつくってきてくれたもの。一人で安全なまちは作れない。

・子ども一人ひとりが家庭の宝、社会の宝でもある。子どもはみんなで大切にしていかなければならない存在。

・だからこそ、多くの人が温かい目で子どもを守ってくれている。

●それに対して、子どもの立場から何ができるかを考えさせる。

●地域を守る活動をしている人たちへの感謝を忘れないこと、さらに、ふだんから地域のつながりをつくっておくことが犯罪の抑止力になることを伝える。

【指導者の声かけ・ヒント】

●「自分のいのちは、だれのものだと思いますか？」

●「みんなが登下校するときにパトロールをしたり声をかけてくれる人たちには、どんな人がいるでしょう？」

●「みんなはいろいろな人たちに守られているのがわかったと思います。もちろん、いのちはそれぞれ自分のものにちがいませんが、家族や地域の人たちにとっても、子どもの存在はとてもだいじでかけがえのないものなのです」

●「地域のたくさんの人たちが、雨の日も風の強い日も雪の日も寒い日も暑い日も外に出てみんなを見守ってくれています。ときには体が悪くなることもあるかもしれませんが、それでもみなさんの安全のために頑張ってくれているのです。そういう人たちに、みんなは何ができるでしょう？」

●「感謝の気持ちをこめて、しっかり挨拶ができるといいですね。地域の人たちは、子どもたちに声をかけられると辛いことも吹き飛ばすくらい嬉しく感じています。笑顔で“おはようございます”“こんにちは”“いつもありがとうございます”“さようなら”と、感謝の気持ちを言葉で表すことは、とても大切なことです」

●「地域の行事などがあれば家族で参加して、いろいろな人にふれあうこともだいじです。地域のつながりがしっかりしていると、悪いことをしようとする人に簡単に入るスキを与えないんですね……」



小学校・高学年・展開 1

●所要時間 約5分 ●準備するもの 特になし

歩くときの注意 I ・後ろに気をつけよう

効果・ねらい 危険予測・危険回避

道にひそむ危険を知り、特に一人で歩いているときには、どんなことに気をつけたらよいかを考えさせる。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

【指導方法】

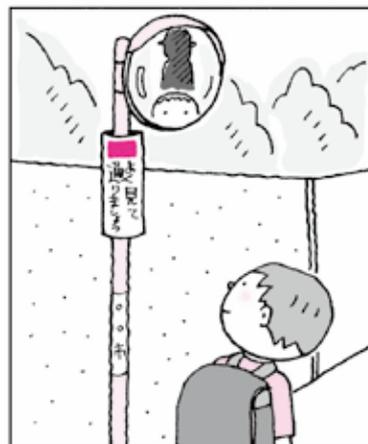
- 代表の子ども(二人)に前に出てきてもらう。
- 2~3m離れて前後に並ばせ、前の子どもには好きなように歩くように伝える。後ろの子には、同じ間隔を保ちながらその子についていくように伝える。1~2分つづける。
- 前の子、後ろの子にそれぞれ感想を述べてもらう。
 - ・前の子：ずっとついてこられてイヤな気持ちがあった、離れてほしいと思った、など。
 - ・後ろの子：前の子にチラチラ振り返られて、自分があやまれているようでイヤな気持ちになった、など。
- 一人で歩いているときはときどき後ろを振り返ることで、後ろの危険に気づけること、周りに警戒していることを示すことによって危険予測・危険回避になることを伝える。
- ロールプレイする。

【指導者の声かけ・ヒント】

- 「みんな、ふだん歩くときに何か気をつけていることはありますか？ 今日はず、代表の二人にモデルになってもらい、歩くときの注意について考えてみましょう」
- 「特に一人で歩いているときや夜道では、ときどき後ろを振り返ってだれかいないか見るようにしましょう。何度も振り返れば警戒している様子がわかるのでねらわれにくくなるし、近づいてくる危険を早く知って、身を守ることができます。振り返らなくても、カーブミラーや建物のガラスなどで後ろを確認することもできます」



カーブミラーで確認



建物のガラスを利用して確認



小学校・高学年・展開 2

●所要時間 約5分

●準備するもの 移動式のホワイトボードや
ついたてなど、仮の塀をつくれるもの

歩くときの注意Ⅱ・曲がり角に気をつけよう

効果・ねらい 危険予測／危険回避

道にひそむ危険を知り、特に一人で歩いているときには、
どんなことに気をつけたらよいかを考えさせる。

【指導方法】

●事前に、移動式のホワイトボードやついたて、段ボールなどを使って仮の塀（直角）をつくっておく。

※塀を準備できなければ、ホワイトボードや模造紙に絵を描いて説明してもよい。

●代表の子ども（二人）に出きてもらい、一人は塀の片方の面にぴったりくっついてもらい、もう一人には、もう片方の側から歩いてきてもらう。何度か歩き、どこまできたら相手が見えるか、どこを歩けば早い段階で相手を見つけることができるかを試してもらおう。

●曲がり角の歩き方を指導する。

・塀のそばを直角に曲がらずに回り込んで歩くことで、先を見る（確認する）ことができる。〈イラスト参照〉

●ロールプレイする。

●曲がり角だけでなく、どこかに人がひそんでいて突然出てくるかもしれないと感じる場所があったら、同じようにその場所から離れたところを歩くことを伝える。

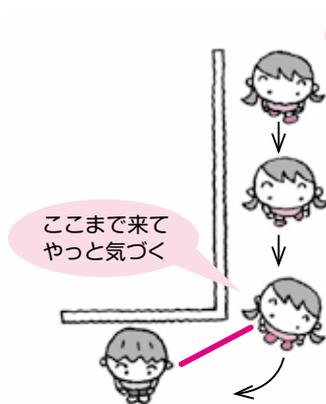
【指導者の声かけ・ヒント】

●「みんなが登下校する通学路には、見通しの悪い曲がり角や塀などはありませんか？ もしそういう場所にだれかが隠れていたとしたら、どうしたらいいでしょう？ 曲がり角にひそむ危険をいち早くわかるには、どこを歩いたらいいでしょう？」

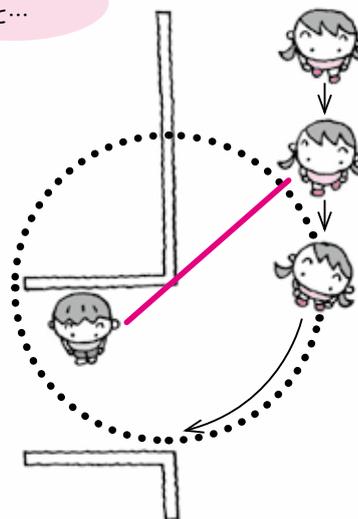
●「こういう場所では曲がり角近くの塀側ではなく、反対側を歩くと、早い段階で角の先を見ることができます。角を曲がる時も直角ではなく、回り込んで歩くようにするといいですね」

※この内容は、あくまでも防犯教室用実践例として紹介しています。ふつうの道路では交通ルールを守り、基本的に右側通行することをあわせて指導しましょう。

曲がり角を曲がる時



角近くの壁側を歩くと…



小学校・高学年・展開3

●所要時間 約15分
●準備するもの ホワイトボード、マグネットなど

エレベーターに乗るときの注意

効果・ねらい 危険予測／危険回避

エレベーターにひそむ危険を知り、一人で乗るとき、人が途中で乗ってきたときに何に気をつければよいか、どうしたらよいかを考えさせる。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

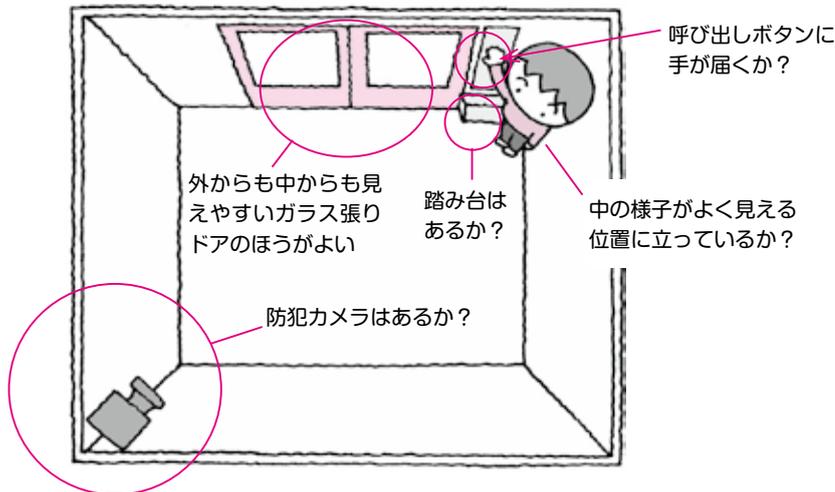
【指導方法】

- 事前に、ホワイトボードにエレベーターの図を描いておく。子どもの絵を描いた紙を、マグネットに貼っておく。
- 代表の子どもに、図を見ながら、いつもエレベーターを利用するときに乗る位置、体の向きに、マグネットを置いてもらう。
- その他気をつけることを、子どもたちに発表してもらう。指導者はエレベーターで起こりうるいろいろな危険(事故も含め)をあげて、リードするとよい。
- 意見をふまえながら指導をする。〈イラスト参照〉
 - ・立ち位置：ドアのそば。操作盤に手の届く位置。
 - ・体の向き：エレベーターの中の様子が見える向き。
 - ・途中で人が乗ってきて怖い雰囲気を感じたとき：できるだけ二人きりにならず、すぐに降りる。降りられなければ、最寄階のボタンを押して早めに降りる。
 - ・襲われそうになったら：中で騒いで揺れると、緊急停止して閉じ込められてしまうこともあるので、かえって危険。とにかく最寄階のボタンを押して逃げ出せるようにする、呼び出しボタン(非常通報ボタン)を押してインターホンで助けを求める。

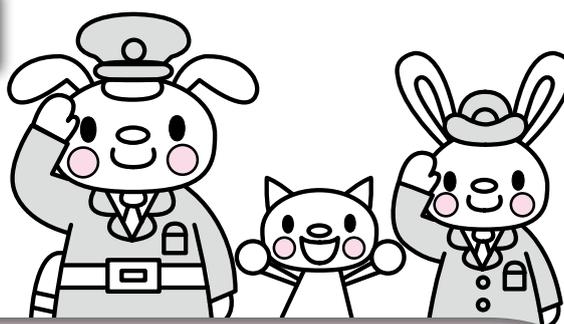
【指導者の声かけ・ヒント】

- 「君はエレベーターに乗るときは、どこに、どんな向きで乗っていますか？ このマグネットを、いつも自分が乗る位置に置いてみてください」
- 「エレベーターは今、生活に欠かせない便利なものなので、身近すぎて危険を感じられないかもしれませんが、マンションなどの集合住宅にあるエレベーター、塾などが入っているビルのエレベーターなど、どのエレベーターにも危険がひそんでいます」
- 「急いでいるときは、満員のエレベーターでも乗ってしまう？／防犯カメラがある・ないを気にして乗っている？／一人で乗っているときに止まってしまったらどうする？」など。
- 「エレベーターは小さな部屋のようなもので、ドアが閉まると完全に密室になってしまいます。何か悪いことをしようとする人にとって、都合のよい場所になることがあります。なるべく何人か人が乗っているときに利用するといいですね。一人のときは途中で不審者が乗ってきたときの心構えをしておきましょう。
乗るときは常に立つ位置や体の向きに気をつけて、もし何かあっても、いつでも降りられるようにしておきましょう」

エレベーターに乗るときに気をつけること



小学校・高学年 まとめ



【基本】

防犯意識を高め、定着させるためにも、

- その日習ったことの要旨をふりかえらせる。
- 習ったことを、友だちや家の人と、生活の中で話し合う機会を持たせる。

ポイント

- その日学んだことのおさらい(ふりかえり)は、子ども自身に発表させる。
- 「学んだこと感想」に加え、「安全を守るために自らできること(発展的な意見)」を述べさせる。
学校に協力してもらい、後で感想文を書いてもらうのも一案。

※学んだことを子ども自身に発表させたり感想を述べさせることで定着度を高め、

防犯学習に積極的に取り組む姿勢を促します。

※さらに、子どもの意識を「安全を守るために自分たちでできることを考える」という発展的な方向に導きます。

※防犯教室開催中、特に怖がる様子が見られる子がいたら、先生につき添ってもらってその場を退席させるようにしましょう。もし今までに何か怖い経験をしたことがあれば、

心のケアが必要かもしれません。専門医の診断を受ける方法もあることをアドバイスしましょう。

※相談窓口の情報を提供する配慮も必要です(電話相談窓口等の情報を子どもにプリントで配布するなど)。

〈しめくくりのことば〉

「高学年になると行動範囲がグンと広がる反面、危険に会う機会が増えるのもたしかです。外出すれば家族や友だち以外の人と接する機会も増えるし、さまざまな誘惑もあるでしょう。携帯電話を持つことによる危険もあります。成長と共に、いろいろな犯罪に巻き込まれる機会が多くなると言えます。犯罪は、子どもだけではとても解決できません。大人の力が必要です。何かあったら決して一人で悩まず、お家の人や先生に相談しましょう。きっとみんながあなたのことを守ろうと、真剣に相談に乗ってくれるはずですよ」